

北海之光

7月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

「与えるよりは受ける方が幸い」

釧路聖パウロ教会牧師
厚岸聖オーガスチン教会(伝道所) 管理牧師

司祭 サムエル 吉野 暁 生

「チャプレーン、こえあげ
ゆ」と言いながら子どもたち
が時々宝物をくれます。一生
懸命折ったであろう少々いび
つな折り紙、はみ出した塗り
絵、読めない字の書いてある
お手紙、お菓子の箱で作った
車(セロテープでベトベト)、
どれもこれも、子どもたちの
想いがたくさん詰まっている
とても大切な思い出の品で
す。

主は「受けるよりは与える
方が幸いである」と言われま
した。だからクリスト者たち
は「与える」ということにす
ごく敏感です。自分を削って
でも誰かのために「与える」
行為、特に「友のために命を
捨てる」ような行動は特に称
賛されるのかもしれませんが。
一方で「与える」という行
動を意識するあまり、「受け

る」ことが下手な人が多いな
と感じることがあります。自
分がしてもらおう側に立つこと
ができずに、いつも動き続け
ている方、準備だけしてさっ
と帰ってしまう方などなど。
時に自分が褒められると謙遜
のあまり怒りだしてしまっ
る人もいます。「自分なんかこ
んな事もつたない」とおっ
しゃる方もいます。でも、そ
んな方たちこそ「与えられる」
べきだと思います。

そもそも何かを「与える」
ためには、それを「受ける」
対象が必要です。対象がなけ
ればただ垂れ流しているだけ
になってしまいます。「与え
る」ことにこだわりすぎるあ
まり、相手のことを考えなく
なってしまうのは本末転倒で
す。「与える」対象を求め続
けるのもまたいびつな気がし

ます。「与える」ことが当た
り前になってしまつて、関係
が変わつてしまうこともあります。
人間は「受ける」だけだと居
心地が悪くなつてしまふ生き
物です。だからこそ誰もが「与
える」側に立つことが必要で
す。子どもたちからもらつた
「贈り物」は、どんなにぐちゃ
ぐちゃなものでも、子どもた
ちがわたしに「与えたい」と
思つたものです。だからわた
しは「受け」ます。「受ける」
ことの多い子どもも、「与え
る」側に立つ機会が必要です。
わたしたちは主から恵みを受
けたと自覚したから「与える」
ことを始めますが、ほかの人
から「受ける」こともしなけ
れば、誰かの「与える」機会
を奪つてしまうことになつて
しまいます。だからわたした
ちも、「上手に受ける」こと
が必要なのではないかと思っ
たのです。もつと「かわいそ
う」人たちが受けるべき、と
言う人もいますが、そうでは
なくてそれは「あなたが受け
る」ものなのです。「わたし

には受ける資格がない」と言
う人もいますが、そうではな
くて、そういつているあなた
こそ「受ける」べきなのです。
「受けるよりは与える方が
幸い」と言う言葉は、「与え
るだけしかしてはいけない」
とか「受けてはいけない」と
いうことではありません。そ
もそもイエスは「互いに愛し
合いなさい」という言葉を残
しています。それは「与える」
と「受ける」をお互いにする
ことだと私は思います。だか
ら時々「与えるよりも受ける
方が幸い」と言うことにして
います。「受ける」人がいな
ければ、「与える」ことはで
きなくなつて、「互いに愛し
合う」ことが止まつてしま
います。「受けた」から「与える」
のであり、「与えた」から「受
ける」側に回ることもあるの
が良いのだと思うのです。
「与えて」「受けて」世界は
回っています。ただ与え続け
るだけでなく、時に「受ける」
ことで、わたしたちは恵みを
補充して、明日に向かつてい
くのです。

—心の窓をひらく—



福音と私(二七二)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌キリスト教会信徒

ヨハネ 工藤 正路

【私の好きな聖句】

いつも喜んでいなさい。

絶えず祈りなさい。

どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙一 五章一六節～一八節)

祈っても叶わぬことが沢山あります。感謝することを忘れがちです。心持ち一つで喜び、祈り、感謝することが出来ます。どうかいつも祈り、感謝の出来る私でありますように。

大阪教区の東豊中聖ミカエル教会から転籍して四年半前に故郷北海道に帰ってまいりました。仕事の関係で全国を転動していた私は、各地で北海道のニュースを新聞、TVで見聞きするたびに懐かしく北海道の事を思い出しておりました。



札幌キリスト教会の籐舞霊園には祖父母、両親、義兄が埋葬されております。

信仰の原点

私の信仰の初めは網走で過ごした幼年期にあります。オホーツク海を見渡せる網走の高台の地で生まれ、小学五年生まで過ごした私のふるさとはです。終戦の色もだいぶ薄らぎはじめたが、日本全体がまだ貧しい時代でした。祖母、両親は網走聖ペテロ教会の信徒でした。この地で祖母、両親、姉、兄の六人家族の家長である父は、網走南ヶ丘高校の教員をしており、躰には厳しい人でした。姉、兄は幼児洗礼を受けましたが、私は忘れられたのか受けずじまい。

当時、教員の生活はそんなに豊かではなく、母は中古の

ミシンを調達して内職をしていた時期もありました。おさがりや継ぎはぎの服を着て、近所のガキンチョ達と隠れん坊や石蹴りパッチを、冬は手作りのソリ滑りで夕暮れまで遊び、オフクロの「ごはんですよー」の声に心残りの家路です。

厳寒期の夜は流水のきしむ音を聞きながら、湯たんぽで温められた布団の中で眠りについたものです。

父のもと家族六人食卓を囲んで、短い朝夕の食事の前の祈り、眠りにつく前の感謝の祈りが礎となり、私の信仰が少しずつ培われたのかもしれない。

私が洗礼を受けたのは、既に按手を受けていた妻との結婚の時であり、大友司祭より学びを受け洗礼を、天城主教から按手を授けて頂きました。両親には感謝をしております。

帰郷して数十年ぶりに札幌キリスト教会の礼拝に出席した時に、大友先生から「お帰りなさい」と笑顔でお迎え頂き、嬉しい思いをしました。

笹森田鶴主教のこと

先日、苫小牧聖ルカ教会信徒の姉から、姉宅で行われた家庭集會時に松井司祭が話された笹森田鶴主教のことが書かれてある「証し」を読んでみないかとの電話がありました。松井司祭に取り寄せ頂き

一〇〇〇ページを超える厚い本(最相葉月著『証し』)が届きました。そこには日本のキリスト者一三五人の言葉と信仰による生き方が綴られていました。「小さい頃から女性に司祭になれないなら、何になろうとずっと考えていたのです。」聖公会東北教区の司祭であった田鶴主教の父の務めがどんなに大変かを知っている母の反対を押し切っても、その決意は変わることがありませんでしたと書かれています。

その強い志と熱意は素晴らしい、敬服しております。志があり思いの有る人は男性であれ女性であれ、その任に当たる選択肢は有るべきです。男女は肉体的な条件を除き平等・対等であらうと思えます。司祭から主教になられる事

に大変なご決断をなされたと思います。一信徒として、北海道教区の主教に選出され、聖公会では東アジア初の女性主教をお迎え出来たことを誠に嬉しく思っております。

広い北海道巡回の中その道中の安全、またお務めの中で色々なご苦労があるうと思えますが、お体に気をつけてお務めされることをお祈り申し上げます。

終わりに

三浦綾子の書いた「ちいろば先生物語」があります。榎本保郎牧師の宣教の生涯が描かれたもので「ちいろば」とは小さいロバのことです。

イエス様を乗せ、イエス様の命ずるがまま行く小さなロバのようになりたいという決意です。

大町先生のメールアドレスも「北ロバ」です。イエス様を乗せ、北の大地を歩むロバでしょうか。帯広聖公会でお元氣にお務めされることをお祈り致します。

常置委員会報告

第八回 六月二〇日

協議事項

- 一、「NPO法人ファミリースポルト聖十字ひろば」新理事長就任について
- ・池田亨司祭の新理事長就任について、笹森主教よりの承諾の意向に同意した。
- 二、SNSへの投稿内容などのインターネットリテラシー(利用法)の確認について
- ・資料を整えた上で学びの機会を設けることとした。
- 三、LGBTQの方々に対する北海道教区としての立場について



主教室から

世界経済フォーラムが二〇〇六年以来毎年発表するジェンダーギャップ指数(男女平等の達成のランキング)が発表され、世界一四六ヶ国中、日本は昨年の一一六位から今年一二五位と順位を下げ、過去最低となりました。この指数は「経済」「教育」「健康」「政治」の四つの分野のデータから分析されます。G7の中ではもちろんですが、アジア諸国の中でもミャンマーと同様に日本は最下位となっています。ここ数年の総合最下位国はアフガニスタンです。

SDGs目標達成などへの取り組みが進み、世界中が改善をしている中で、日

本格格差解消はなかなか進んでいないようです。日本の強みである教育分野でも女性の高等教育の就学率の低下で四七位に下がり、また経済分野では労働参加率はある程度高いものの、賃金や立場の男女格差などを反映して一二三位、さらに政治の分野においては、衆議院議員に占める女性割合が一〇%未満、閣僚は八・三%であること、女性の首相が誕生していないことが理由となり、一三八位となっています。この指数の評価算出方法への批判がある一方、少なくとも二〇年近く毎年同じ方法で算定されている中での下降傾向は非常に厳しい日本社会の現実を映し出しています。

社会的性別役割を指しませんが、社会通念や慣習の中で作り上げられ、時には偏見とつながる、わたしたちの生活に大きな影響を与えるものです。こどもたちもその姿を見て育ちます。

主イエス様の側には、女性たちが集い、学んでいました。それは当時の社会通念では考えられなかった姿であり関係でした。主イエス様が境界を飛び越え、壁を壊して一人ひとりの生き方や命を受け止めてくださったからこそ、弟子集団が自由で平等な関係を構築し、それが教会のモデルにもなっています。いつか教会が日本社会のモデルになれるようにと祈り願います。

義 マテア・グレス 笹森 田鶴

- ・高橋愛さんが教区青年担当
- ・必要部数を確認の上、増刷を検討することとした。
- 六、北海道教区と東北教区の合同教役者会について
- ・一〇月一八日～一九日に、函館で開催することを確認した。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

八月九日(水)

午前二〇時三〇分 於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

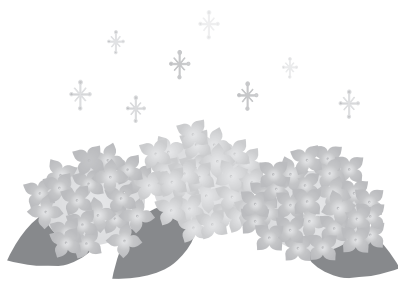
- 執事 高津 守三郎 一九〇九年八月二日
- 司祭 林 兼治 一九三八年八月四日
- 執事 高橋 俊夫 二〇一〇年八月四日
- 伝道師 高野 万次郎 一九三五年八月五日
- 司祭 上田 貞雄 二〇〇六年八月七日

- として、川那部悠さんが青年代表として出席することを確認した。
- 五、「信仰のデザインノート」葬儀へのそなえ」増刷について
- ・必要部数を確認の上、増刷を検討することとした。
- 六、北海道教区と東北教区の合同教役者会について
- ・一〇月一八日～一九日に、函館で開催することを確認した。

- 伝道師 清川 戌七 一九五八年八月一〇日
- 伝道師 石原 園井 一九二五年八月一日
- 司祭 村瀬 敬輔 二〇〇九年八月二七日
- 宣教師 チャールズ ネットルシップ 一九二八年八月二八日
- 執事 高橋 俊六 一九四五年八月三〇日

* * *

教区逝去教役者聖餐式は、コロナ感染防止に留意しながら、通常通りおさげさせていただきます。どなたでも参加できます。





北海道教区

クララ 吉谷かおる

東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォース「チーム北国」の活動について、これからは隔月で、両教区の教区報に共通の記事によって報告をさせていただきます。

三月の本格始動の後、仙台基督教会と札幌キリスト教会を、メンバーが互いに訪問しあつて、二回のミーティングが行われました。

第二回ミーティング(四月二八日仙台)では、前回作成した向こう五年間の活動計画を示す「ロードマップ」に基づいて、初年度のテーマ「出会い」のためのアイデアを出し合い、説教者交換、合同のキャンプ、合同教役者会等の実施の可能性を探りました。

た。広報についても検討しました。

第三回ミーティング(五月二五日札幌)では、両教区が資料を持ち寄り、それぞれの教勢、財政、組織、年間計画などについて情報を共有し、共通点や相違点について理解を深めました。具体的な宣教協働の機会や方法については、順次ご案内していきます。

この間すでに、四月二二日の東北教区主教接手式には笹森田鶴主教が、五月二〇日の北海道教区教区礼拝には長谷川清純主教が、それぞれ説教者に招かれるといったかたちの交流も進んでいます。長谷川主教は五月の北海道教区春季教役者会でも、両教区の課題の共有につながるお話をしてくださいました。

実際にその地に足を運ぶこと、顔を合わせ、言葉をかわすことで距離が縮まり、協働の楽しさが実感されます。信徒、教役者が出会う機会を数多く設けて、交わりの輪を広げていきたいものです。

今後は六月二十九日に仙台で第四回、七月一七日に札幌で第五回のミーティングが行われる予定です。



宣教一五〇年実行委員会だより V

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。今回は宣教一五〇年実行委員会の計画している「宣教一五〇年記念事業」について、少しお話ししたいと思います。

「宣教一五〇年」と聞くと、「ああ、記念礼拝をやるんだな」という「お祭り」の側面を、みなさんまず思い浮かべるのではないのでしょうか。確かにそういった「イベント」の面もありますが、わたしたちが考えているのはその年一年だけのことではありません。

「宣教一五〇年」を「記念」する、と考えた時に、大切なことがいくつかあります。一つは「振り返る」ということです。北海道教区がどんな歩みをしてきたのか、どんな人がかかわってきたのか、どんな出来事があったのか、こういったことを掘り起こすのは大切なことですし、過去の過ちを考え直す必要はなりません。教区の過去を振り返るのには「教区九十年史」があり

「宣教一五〇年」と聞くと、これは断念し、各教会のこれまでの歩みを振り返る「記念誌」の発行と、信徒の視点から振り返る「福音とわたし」の書籍化を行うことにしました。また、きちんと振り返られているとは言い難かった教区の「アイヌ宣教」を振り返るシンポジウムや勉強会などをスタートさせることにしています。「過去」を振り返ることで、「これからの未来」につなげていく、こういったことから始まる事業でもあります。こういった定点的な「振り返り」は教区のこれからのために重要であり、ある程度の費用をかけることが大切だとわたしたちは思っています。

どうぞこれからも宣教一五〇年実行委員会の働きのためお祈りください。

司祭アキラ上平仁志 師追悼

敬愛する司祭アキラ上平仁志先生が、去る五月三十一日(水)入院先の病院にて、安らかに主のみもとに召されま

した。八五歳五ヶ月の地上でのご生涯でした。

六月二日(金)、三日(土)と主教座聖堂札幌キリスト教会にて通夜の祈り、葬送式が執り行われました。司式は両日とも笹森田鶴主教、説教は通夜式では司祭ミカエル広谷和文先生が、葬送式では、笹森主教が担当されました。

両日とも聖職・信徒あわせて一〇〇名以上の仲間たちで先生をお送りしました。

この度、編集委員会は、説



教を賜った司祭ミカエル広谷和文先生と、長く親交のあった司祭グレゴリー松井新世先生に追悼文を依頼しました。

謹んで、主の平安と光明を上平仁志先生に祈るとともに、ご遺族の方々に主よりの慰めを祈ります。

(北海の光編集委員会)



天の故郷をあこがれて

—アキラ上平仁志司祭を送る—

司祭 ミカエル 広谷 和文

敬愛するアキラ上平仁志先生は、五月三十一日、この世の旅路を終え、創り主である神さまのみもとへ帰ってゆかれました。八五歳五ヶ月でした。共に歩んでこられたご家族、友人の皆さまに、主の豊かな慰めが与えられますように、お祈りいたします。また、この数年体調のすぐれなかった先生への配慮を続けてこられたご家族に、心から「ご苦労さま」と申し上げたいと思います。

一昨日の夕方、上平更先生からの電話で仁志先生のご逝去を知らされました。実はその時は、意外な思いよりも来るべき知らせを受けたというような思いがしたのです。と言いますのは、その直前に夕方の散歩をしながら、上平先生はどうしておられるだろうかと考えていたからなのです。コロナも一段落したことですし、どこかでお会いできないだろうかなどと思いな

がら帰ってきたところでした。ですから、意外というよりもひたすら淋しい思いを噛みしめながら、いただいた電話に耳を傾けたのです。それは数少ない友人を失ったという淋しさに他なりません。仁志先生とは、一回り以上年齢が違ってもかかわらず、あたかも同年配のように親しくお付き合いさせていただきました。そのようなことができたのも、先生の若々しさと誠実さとやさしさのおかげではなかつたかと思えます。

はじめてお目にかかったのは三四年前のこと。私が聖マールゲレット教会の牧師に赴任した時のことでした。そのとき先生はすでに同教会の客員信徒として教会生活を送っておられたのです。先生は、自分は日本基督教会の教職であり、事情があつてこちらの教会へ通っていると自己紹介をされました。そして、よかつたらと『上平仁志個人新聞』

すつとかま』という印刷物をくださったのです。それはガリ版刷りの文字通りの「個人新聞」でしたが、故郷熊野の民間伝承にまつわる話題、身辺雑記、精魂傾けた聖書の研究、これらが絶妙に溶け合っていました。まもなく私がその最も熱心な読者の一人となつたことは言うまでもありません。

数年後この新聞は『コヘルト』と名前を変えます。先生は、その「社名変更」の理由が「コヘルトの書」をはじめとする旧約の知恵文学への関心であり、そこに自分は古代イスラエルの歴史の中から生まれた普遍主義的精神を見ているといったことを熱っぽく語ってくださったのです。内容も知恵文学に関する記事が多くなり、一層充実した紙面になったように思いました。私もそれまで以上に多くの質問をするようになり、議論も繰り返しました。とにかく、こうして先生との間に「対話の場」が生まれるようになったことを大変うれしく思ったのです。

やがてこの対話が聖公会の聖職を巡る語り合いとなり、五年後、先生が聖公会の聖職を目指されるようになったことを思いますと、そこに何か摂理的なものを見ないわけにはいきません。しかし、それがとんとん拍子に進んだわけではありませんでした。日本基督教会の教職として歩んでこられたご自身の信仰歴からくる葛藤もあったことでありましょう。その葛藤の中で先生は聖公会の祈祷書と法憲法規を徹底的に学ばれたのです。五色のマークで付けたしるしと挟んだ付箋で極彩色に変わった先生の祈祷書が目につかびます。ある日やってこられた先生は、一つの結論を語るかのように、晴れ晴れとした表情で「聖公会の立場で自分に受け入れられないことは一つもない」と言われました。それから間もなく聖職志願をされ、一年後ウイリアムス神学館へと旅立って行かれたのです。

聖職となられた先生が札幌キリスト教会を皮切りにオホーツク、札幌、日高の諸教会で牧師として、幼稚園と保育園のチャプレンとして働かれたことは、私たちの知るところです。よき牧会者としての面影は多くの信徒の心に刻まれていきます。また聖職になられてからは、個人新聞「コヘレト」に代わって、説教者として、深く掘り下げられた聖書の解釈を、福音として語ってくださいました。このような先生の聖職への歩み、聖職としての歩みに私は、一人の旅人の姿を見る思いがするのでした。

ここでヘブライ人への手紙一章一三節以下のみ言葉を讀みたいと思います。「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束のものは手にしませんでしたが、はるかにそれを見て喜びの声を上げ、自分たちが地上ではよそ者であり、滞在者であることを告白したのでした。彼らはこのように言うことで、自分の故郷を求めていることを表明しているのです。もし出て来た故郷のことを思っていたのなら、帰る機会があったでしょう。ところが実際は、彼らはさらにまさった故郷、すなわち天の故郷をあこがれていたのです」。

ここに一人の旅人の姿が描き出されています。それはこの地上を旅する旅人の姿です。しかし、彼の目的地はこの地上にはありませんでした。彼は地上を旅しながら、実は地上を越えた天の故郷を求め、天の故郷をあこがれて旅を続けていたというのです。このみ言葉を心に留めながら、もう一度先生のご生涯を思い浮かべてみたいと思います。聖マーガレット時代の先生の職業はセールスマンでした。行商と言った方が正確かもしれません。つまり、パイプ椅子などの汚れを落とす泡状の洗剤を自分の車に積んで、道内各地や東北地方を売り歩く仕事をなさっておられたのです。私たちもその実演を見せてもらったことがありました。軽妙な語り口で洗剤の効力をたんたんと説明し、教会ホールの椅子にその泡を吹きかけて布で拭くとその汚れがあつと言う間に落ちてしまふのです。私たちもあつと驚きました。汚れが落ちるだけではなく、先生の語り口の巧みさにも驚いたのです。

もちろん、それが楽な仕事でないことは言うまでもありません。たくさん買ってもらう日もあれば、一日中歩き回ってもほとんど売れなかったこともあったそうです。車上荒らしの被害に遭われたこともありました。そのようなことを思い返しますと、先生の飄々とした明るさは、一体どこから来たのだろうかと思われないわけには行きません。地方に出かけて、ビジネス旅館などに宿泊するとき、それでも勉強されるといふ話をよく伺いました。狭い一室で聖書を開かれるのです。原典の聖書です。持ち運ぶことのできる辞書と註解書を手掛かりに一語一語と格闘し、その意味を明らかにし、自分の心に語りかけるメッセージに耳を傾ける、それが何よりの楽しみだというお話でした。ここに私たちは旅人としての先生のもう一つの姿を見ることができのではないと思えます。それが「天の故郷」へのあこがれに生きた仁志先生の姿に他なりません。

キリスト者とは、この世の故郷にまさる故郷、すなわち「天の故郷」を求め、天の故郷にあこがれて生きる者のことではないでしょうか。上平司祭のご生涯はまさにこのことを示していました。ヘブライ人への手紙に記されているように、私たちはまだ約束のものを手にしたわけではありませんが、その「天の故郷」をはるかに仰ぎ見て、「天の故郷」に向かって喜びの声を上げながら生きるのです。私たちは、この世の旅路を終えた上平司祭が、今あこがれ続けた天の故郷、神さまが用意してくださったパラダイスにおいて、イエス・キリストの復活に与る者へと変えられたことを信じます。そして、共に復活の命に与ることを待ち望みながら、上平先生をこの世界と私たちの教会に、家族として、友として、司祭としてお与えくださった恵みに感謝を捧げたいと思えます。そして、この感謝をもって先生をお送りしようではありませんか。

虹

司祭 グレゴリー 松井 新世

夜明け近く、再び激しくなった雨の音で、浅い眠りから目を覚ました。屋根を叩いたその雨は木々の葉をたつぷりと濡らした。それでも、司祭上平仁志師の逝去の報は自分で驚くほど悲しくなかった。口ごもりながらもハレルヤと賛美していた。

以下、数日後の主日説教の一部を抜粋する。

「上平仁志司祭には大変学ぶことが多く、感謝の思いで一杯です。私が神学校出ての最初の派遣先は網走聖ペテロ教会でした。司祭は札幌キリスト教会から北見聖ヤコブ教会に転任されてきたばかりでした。人事では二人で紋別聖マリヤ教会含めてのものでした。これにはなかなか苦心しました。三教会と連絡を取り合い、バランスを保ちつつ宣教していくというのは、経験のない私には綱渡りのようなものでした。一方で、司祭に

は私を教えるという姿勢は全くありませんでした。それよりも自らの弱さや貧しさをあつげられんと示していくのです。失敗談も多数披露してくれました。(略)司祭は常にマイペースでしかも誰でも包み込もうとする姿に、次第に肩の荷が下りていきました。み言葉に関してとはとりわけ真剣でした。司祭は自ら毎年のように東神大や海外に聖書の学びに行くなど聖書に対しては妥協のない姿勢でし

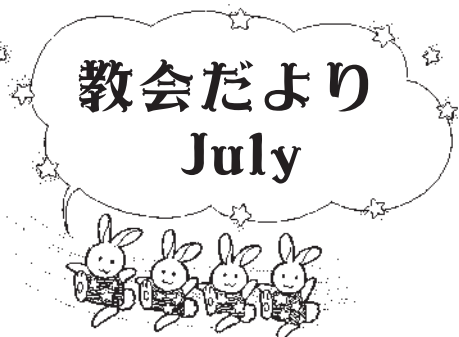
た。またトラクト配布などの伝道に対しての姿勢にも多く学びました。佐々木司祭亡き後、私は司祭のみ言葉への、宣教への姿勢に多くを学ぶと共に、司祭のユーモアある、包容力ある人間性に神学の本質を垣間見たような気が致しました。」

人の世の、共に時を同じくして主と共に生きて来たその寂しさを今想う。

北見聖ヤコブ教会の掲示板一面に自作のノアの箱舟の絵を飾っていたなあとは懐かしさが溢れて出てくる。

司祭アキラ上平仁志 略歴

- 一九三七(昭和一二)年二月五日 三重県熊野市五郷町に生まれる
 - 一九六〇(昭和三五)年七月 日本バプテスト教会連合勝浦基督バプテスト教会にて洗礼を受ける
 - 一九七三(昭和四八)年 日本基督教会札幌北一条教会白石伝道所教師補任職
 - 一九七四(昭和四九)年一〇月一五日 プリスキラ山崎佑子と結婚
 - 一九七五(昭和五〇)年 札幌北一条教会白石伝道所教師任職
 - 一九九四(平成六)年四月 日本聖公会北海道教区 聖マーガレット教会にてオーガスチン天城英明主教より堅信
 - 一九九五(平成七)年四月一日 ウイリアムス神学館入學
 - 一九九六(平成八)年四月一日 札幌キリスト教会勤務
 - 一九九六(平成八)年八月二四日 札幌キリスト教会にて天城主教より執事按手
 - 一九九七(平成九)年五月二二日 札幌キリスト教会にてナタナエル植松誠主教より司祭按手
 - 二〇二二(令和五)年五月三二日 逝去(八五歳五ヶ月)
- 【牧師・管理牧師・チャプレン】
- 札幌キリスト教会のほか、北見聖ヤコブ教会、網走聖ペテロ教会(管理)、紋別聖マリヤ教会(管理)、紋別幼稚園(チャプレン)、札幌聖ミカエル教会、聖ミカエル幼稚園(チャプレン)、美唄聖アンデレ教会(管理)、平取聖公会、バチラー保育園(チャプレン)、新冠聖フランシス教会
 - 二〇〇八年三月三十一日 定年により退職
 - 定年退職後も嘱託として平取聖公会、バチラー保育園、新冠聖フランシス教会で勤務したほか、札幌市内の教会を中心に主日礼拝の奉仕を続けた。



▽旭川聖マルコ教会

なかなか暖かくならない春から、突然真夏の暑さになりました。芝生のはずの園庭は、シロツメクサで真っ白に。毎週刈っても、毎週元気に元通りです。一八日は下澤司祭が深川へ。広谷司祭がご奉仕くださり聖餐式をまもりました。恵まれた環境に感謝。二五日は出会いと交わりの日。「ただいま」とやって来られた吉野司祭と、懐かしい人も、はじめましての人も月に一度のマルコ食堂で親しく交わりのとき。午後はアグネス臺灣子さんの逝去一周年記念式。

保育園のさくらんぼも食べ

▽岩見沢聖十字教会

六月中旬、幼稚園各クラスはバス遠足が行われました。年少は砂川子どもの国、年中は岡山動物園、年長は岡山登山へ。年長の登山では暑い中、頑張つて登り切りました。

二五日「出会いと交わりの日」。司式は苦小牧聖ルカ教会の松井新世司祭。ユーモア溢れる説教に笑いの渦に包まれました。そして、久し振りの愛餐会。実に楽しい一時でした。後日、松井司祭より心温まる礼状が届きました。教会もコロナ前に戻りつつありますが、来会が途絶えている教友の為に祈っています。

▽釧路聖パウロ教会

厚岸聖オーガスチン教会

釧路にまたジワリ。コロナとインフルエンザ流行の兆しが。でも、六月四日の「三位一体主日」には大勢の信徒が。

翌週、聖霊降臨後第二主日は「教会問答あれこれ」勉強会。早くもQ&A「旧約聖書に記されている神の戒めを言いな

い」つまり「十戒」の話です。「十戒を分かり易く説明すると、前半の一〜四は『神様と人間の関係』、そのあるべき姿が書かれています」と吉野司祭。「後半の五〜十は『人間と人間の関係』です。つまり『十戒』は、人々が円滑に暮らすための心得、決まり事。『人を生かす』ためのものでした」しきりに頷く一同。勉強会後、礼拝堂では前田家の逝去者記念式のお祈りが。

二七日は「出会いと交わりの日」。紋別から越山健蔵司祭ご夫妻で来釧。吉野司祭は旭川へ。春田夫妻が所用でお休みということで皆さん早出し、オルターを務められました。礼拝後のお茶会は、越山司祭の前赴任地、郡山での震災体験を伺うなど文字通り「出会いと交わりの日」となり、ゆったりした時間が。一同、新たな体験となりました。

▽帯広聖公会
一日、五月末に天の父のみもとに召された橋本徹子姉のご逝去記念式が行われました。長く闘病生活を続けてお

られました。あまりにも急な旅立ちでした。信徒一同、生前の豊かなお交わりに感謝しつつ魂の平安を祈りました。

▽稚内聖公会(伝道所)
六月、稚内もようやく暖かくなりました。全国から宗谷岬を目指すライダーたちも復活したようです。六月は二回の聖餐式。九日は管理牧師の下澤司祭による司式、二五日の「出会いと交わりの日」には、深川から甲斐司祭が二三〇キロの距離を移動して礼拝を守ってくださいました。また、昔、教籍のあった方々を訪問してください、感謝です。建物の傷みが気がかりですが、日本聖公会最北の礼拝所を守り続けたいと思います。

▽平取聖公会

六月二五日「出会いと交わりの日」の礼拝には、旭川から下澤司祭と依子夫人が新冠に続いてお出で下さいました。説教の中で、北星大学四年生の時に大谷地伝道所で洗礼を受けたこと、卒業してからは道北クリスチャンセンターで「道北三愛塾」や「障がい者施設」での多くの出会いが聖職者を目指すことになったとお証しく下さいました。

神学校の夏季実習では江口司祭の指導で新冠と平取でも学ばれました。大切なのはイエスが助けたいと願った人々がそれぞれに生かされ、神様がくださった一度きりの人生を演じることである、とのこと。

バチラー保育園の落成式は七月一七日(月)に笹森主教の司式で行われます。

▽網走聖ペテロ教会

六月出会いと交わりの日は、二四年前に管理司祭だった大町司祭が来網。教会建替えやその間の仮住まい教会の思い出を懐かしみました。そ

して今集う「のあ」の子ども達と関係者、来会者の方々と食事を共にいたしました。ザカリヤの会輪読書ウイリアムス神学館叢書Vは祈祷書の誕生迄読み進み、聖公会の歴史に触れています。教会勉強会では箴言七章を味わいました。ペテロの会は、玄関ホールのワックス掛けをし、建替えて初めて破損した戸車を交換。駐車場周りは、コスモスが一杯。

▽札幌聖ミカエル教会

一一日、「信仰のデザインノート」について大友宣さんにノートの使い方について、制作時の参考資料を踏まえてお話しいただきました。翌主日の礼拝後は、婦人会の集まり、結婚準備の学び、青年たちの集まりと教会が終日にぎやかな一日となりました。二五日は、日曜学校の遠足日。天気に恵まれ五二人の参加者が円山動物園での遠足を楽しましました。幼稚園の子どもたちは運動会に向けて元気に練習中。六月にはいちご狩りで口いっぱいいちごを頬張らせて季節の恵みを楽しみました。

▽札幌キリスト教会

六月に入り初夏を感じる季節。二日、三日、アキラ上平仁志司祭の通夜の祈り、葬送式が行われた。当教会でも長年ご奉仕に感謝と共に、霊の平安をお祈りします。一一日、礼拝後、愛餐会の昼食担当と秋に予定のバザーについての話し合いがもたれた。また墓地礼拝にバスの使用を決め、コロナ禍前の様子に戻りつつあります。二五日、信徒奉事者団による司式と工藤正路さんの勧話による「み言葉の礼拝」が行われた。丁寧な準備、進行により、豊かな礼拝を献げることができ、感謝。

▽新札幌ニコラス教会

牧師館が空き家となり、普段は静まりかえっていますが皆で建物を守って二カ月が過ぎました。六月第一主日は菊池まつ子信徒奉事者による礼拝。第二主日は三浦執事による「み言葉の礼拝と陪餐」で一五名の陪餐でした。第三主日は阿部芳克司祭のご奉仕で旧交を温めました。今年の「出会いと交わりの日」は木村夕子司祭をお迎えし、会衆席に大友司祭がおられる中で守られ、二二名と復活日を越える出席者でした。この日はミカエルと札キからの来訪があり、留萌を加えて賑やかな四教会の交わりの日となりました。主に感謝。

▽聖マーガレット教会

六月に入り新型コロナウイルス対策で中止していた「チャント」を再開。また第一主日の礼拝後には、軽食での愛餐会も復活。その他の主日の礼拝後では、玄関ホールでお茶を飲みながら交わりの時を持つようになりました。引き続き感染対策をしつつ、笑顔で交わるひと時に喜びを感じています。

▽留萌キリスト教会

寒暖差が激しい六月、病後の小林栄子さんは自宅療養を続けておられます。土門明子さんは自宅で転倒し、骨折はないけれど痛みがあるため病院に入院されました。七月のバザーの内容を話し合い、現在の体力に合わせた可能な範囲で行うことを確認しそれぞれに準備を進めていきます。

▽有珠聖公会

六月一四日、刑部なよ子さんが逝去されました。召されし霊の平安とご遺族の慰めのためお祈りください。二五日、「出会いと交わりの日」、札幌より永谷司祭を迎えて聖餐式が捧げられました。この日、新たな奏楽者が与えられた事も感謝でした。境内のクルミの老木が倒れ、信徒の奉仕により切り分けられました。切り株の根本には若枝が育ち、教会同様、バチラー夫妻記念聖堂の森も、新しくされ受け継がれて行きます。白老のウポポイで八月二〇日まで「アウタリオピッタ アイヌ文学の近代 ―バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市―」が開催中です。

会からのおもてなしで歓迎しました。遠い所をありがとございました。

▽新冠聖フランシス教会

新緑に囲まれた教会の窓を開けると、セミの鳴き声と木の葉の揺れる涼しげな音に心癒されるこの頃です。

▽留萌キリスト教会

寒暖差が激しい六月、病後の小林栄子さんは自宅療養を続けておられます。土門明子さんは自宅で転倒し、骨折はないけれど痛みがあるため病院に入院されました。七月のバザーの内容を話し合い、現在の体力に合わせた可能な範囲で行うことを確認しそれぞれに準備を進めていきます。

▽苫小牧聖ルカ教会

教会の庭が樹木の剪定と有志により花を植えたことにより少すつきりしました。礼拝は以前の姿に戻りつつありますが、礼拝後の集いについてはもう少しかと思えます。

二五日、出会いと交わりの日には飯野司祭が司式・説教を下さいました。お昼は婦人

一八日は笹森主教の巡錫、

久々に多くの方と一緒に聖餐に与ることができました。時間の都合上、交わりの時は持てませんでした。チーム「北国」のお話を解り易くして頂きました。

二五日は内海司祭が来てくださいました。礼拝後は平取のお話をして頂きました。お隣の教会ですが、知らないことが沢山ありました。

幼稚園の子供の声が聞こえる。と何故かホッとします。神に感謝。

▽室蘭聖マタイ教会

緑美しい季節となり神様の創造の緻密さに感動。五日、松井司祭ご来会し「ヨブ記を読む集い」。ゆっくり読み進める大切さを学びました。一日礼拝後は「テモテへの手紙」を読む会。事前にこの手紙の背景の説明があり、改めて書かれた事の重さを思いました。一八日、主教様ご来会。この日東京より福島さん、大宮より石渡谷さんが礼拝出席され、温かいことばに励まされました。二五日、永谷司祭による交流の集い。礼拝後昼食を共にし歓談。二九日、

財政についての話し合い。これからの室蘭マタイ教会を祈りつつ帰路につきました。

▽今金インマヌエル教会

朝、起きると小鳥達がさえずり、水田の稲や畑の男爵イモの花も満開です。教会の塗装工事も多くの皆様の心温まる献金の力で無事終了、田園風景の中に鮮やかにその姿を見せています。教会の花壇や草刈りも信徒全員で汗を流しました。また、藤井司祭の検査入院を耳にした私達は司祭夫婦を囲んで念願のBBQを企画し、楽しい食事と信徒からの励ましがありました。

▽池田司祭が来町し礼拝を守り、楽しい食事の機会が与えられ感謝です。私達も多くの人のつながりを模索しています。

▽紋別聖マリヤ教会

新緑がまぶしい季節となり、毎週の礼拝では祭壇に色鮮やかな牡丹やシヤクヤクの花などが飾られています。四日、越山司祭による礼拝・聖餐式。二五日は札幌より上平更司祭が来紋、礼拝・聖餐式

▽北見聖ヤコブ教会

ギデオン協会の高木氏が六月一八日に見えられ、報告と証しの時をお持ちくださいました。イエス様をお伝えしたいとの溢れ出るものに深く感じ入りました。二五日は「出会いと交わりの日」。当教会の牧師もされていた大町司祭がお越しください。懐かしき交わりに花が咲きました。お説教の中でゴスペル・シンガーのレーナ・マリアさんの「二羽の雀」をお聴かせください感動しました。江口さんが一月に逝去されたお連れ合いの遺影を持参され、共に礼拝をされました。

▽小樽聖公会

六月九日(金)、テモテ平

をお捧げすることが出来ました。上平司祭は二〇年以上前の学生時代に一度ご両親と共に紋別を訪れており、懐かしい土地での嬉しい交わりの時が持たれ感謝でした。紋別では連日の住宅地周辺でのクマ目撃情報で、何処へ行くのも気が抜けない状況です。幼稚園の子どもたちの安全を祈ります。

▽函館聖ヨハネ教会

晴天の中、函館マラソンが行われた六月二五日、小樽聖公会の池田亨司祭を迎えて「出会いと交わりの日」の礼拝が行われ、その中で林和子(九六歳)さんの洗礼式。新しい家族が増える喜びを皆で分かち合いました。ご自分の足で歩かれ、張りのある声でご挨拶されました。短時間ながら愛餐会を行い、楽しい時

▽函館聖ヨハネ教会

野博信さん急逝。諸事情により火葬後、一二日(月)午後二時より教会にて葬送式。一同、突然の死に悲しみにくれつつも、いのちの源である主の御手に平野さんをゆだねて祈る。

▽深川聖三一教会

二五日(日)「出会いと交わりの日」。笹森田鶴主教さまをお迎えし聖餐式。礼拝後、茶話会を開き、「小笠原について」主教さまから語っていただく。小樽聖公会において、一九二〇年代、小笠原出身のグレー家の子どもたちが六名受洗しているが、小笠原聖ジョージ教会に、その家系の方々がおられることが判明。

▽函館聖ヨハネ教会

晴天の中、函館マラソンが行われた六月二五日、小樽聖公会の池田亨司祭を迎えて「出会いと交わりの日」の礼拝が行われ、その中で林和子(九六歳)さんの洗礼式。新しい家族が増える喜びを皆で分かち合いました。ご自分の足で歩かれ、張りのある声でご挨拶されました。短時間ながら愛餐会を行い、楽しい時

間を過ごしました。その後は、次週のオープンガーデンに向けて皆で草取り。近隣の方にも手伝っていただき感謝。色々な花が咲くこれからの季節。ますます楽しみです。

▽深川聖三一教会

六月四日、委員会では今月の楽しい行事を協議する。六日、主教認可で塗油式が行われる。感謝。一日、宣教開始一二五年記念礼拝、笹森主教巡回日、三年ぶりの祝会で主祭様を歓迎す。小笠原の教会のお話を傾聴す。一八日、新管理牧師コルベ下澤昌司祭ご来訪主日。一同典雅な説教を拝聴す。司祭の「自分史」を楽しく何う、感謝。二五日「出会いと交わりの日」、北見より飯野正行司祭が来られる。一同と旧交を温める。ありがたいございました。甲斐司祭は稚内聖公会へ出向す。

▽函館聖ヨハネ教会

晴天の中、函館マラソンが行われた六月二五日、小樽聖公会の池田亨司祭を迎えて「出会いと交わりの日」の礼拝が行われ、その中で林和子(九六歳)さんの洗礼式。新しい家族が増える喜びを皆で分かち合いました。ご自分の足で歩かれ、張りのある声でご挨拶されました。短時間ながら愛餐会を行い、楽しい時

▽函館聖ヨハネ教会

晴天の中、函館マラソンが行われた六月二五日、小樽聖公会の池田亨司祭を迎えて「出会いと交わりの日」の礼拝が行われ、その中で林和子(九六歳)さんの洗礼式。新しい家族が増える喜びを皆で分かち合いました。ご自分の足で歩かれ、張りのある声でご挨拶されました。短時間ながら愛餐会を行い、楽しい時

晴天の中、函館マラソンが行われた六月二五日、小樽聖公会の池田亨司祭を迎えて「出会いと交わりの日」の礼拝が行われ、その中で林和子(九六歳)さんの洗礼式。新しい家族が増える喜びを皆で分かち合いました。ご自分の足で歩かれ、張りのある声でご挨拶されました。短時間ながら愛餐会を行い、楽しい時

